――――――

第２回流域治水シンポジウム開催のご案内
「何が生死を分けたのか？」住民主体の流域治水を提案する
（令和2年球磨川流域豪雨被災地域からの発信）

＜趣旨＞
先月4月28日、国で流域治水関連法案が可決・成立しました。河川の中に閉じ込めきれないほどの計画規模を越える大洪水に対しても、森林保全や水田活用、また土地利用や建物配慮や避難体制の強化など、命や暮らしを守るための９つの束ね法案であり、過去130年の日本の治水政策の大転換です。

昨年7月4日の熊本県球磨川流域で発生した豪雨は、明治時代以降最悪の被害となってしまいましたが、50名の溺死者お一人ずつのお住まいなどを訪問しながら流域住民の手で、「何が生死を分けたのか？」と調べました。その結果、森林崩壊や球磨川へ流れ込む支流や町中水路の洪水の影響で亡くなっている人が多いことがわかりました。これこそ、流域治水の必要性を示しています。

そこで、国会議員や行政関係者、マスコミ関係者に、全国のモデルケースとして球磨川流域での水害溺死者調査結果と流域治水政策の可能性と課題を報告するため、下記シンポジウムを開催いたします。

なお2009年に中止した川辺川ダムは球磨川上流の支川に計画されていた多目的ダムで、今回の豪雨被害を受けて、熊本県知事が復活を示唆しているダム計画です。「命と暮らしを守るためのダム建設」の必要性等についても語りあいたいと思います。多くの皆さまのご参加をお待ちしております。
――――――
■日　　時　：　2021年 5月31日(月)　 14時～16時30分
■場　　所　：　オンライン会議システムZoom配信
■申込み方法：  <https://forms.gle/gkTUnUjvSYFzP86f7>
　　　　　　　　上記よりお申し込み下さい。

■主　　催　：　流域治水シンポジウム実行委員会
■お問合せ先：　流域治水シンポジウム実行委員会事務局
　　　　　　　　（参議院議員 嘉田由紀子事務所）
　　　　　　　　　　　　TEL　03－6550－0815
　　　　　　　　　　　　FAX　03－6551－0815

**＜次　第＞**

14時 　　　開会挨拶　篠原孝 衆議院議員　（シンポジウム実行委員長）

14時5分～14時45分

**第一部：基調報告**　島谷幸宏（熊本県立大学特別教授）

「球磨川の水害と流域治水」

（14時45分～15時　休憩）

15時～16時

**第二部：個別報告**　溺死被害者調査の結果から命を守る流域治水政策を提言する

講演①　地区別調査下流部から：森林と瀬戸石ダムの影響を考える

つる詳子(八代市、自然観察指導員)

講演②　地区別調査中流部から：令和２年７月豪雨災害　球磨村からの報告

　　　　市花由紀子（「7・4球磨川流域豪雨被災者・賛同者の会」会員）

講演③　地区別調査人吉盆地から：実態調査から何を学んだか

木本雅己（「清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会」事務局長）

講演④　環境社会学的被害者調査の方法と経過～流域治水は住民主体で～

嘉田由紀子（参議院議員、日本環境社会学会元会長、前滋賀県知事）

（16時～16時10分　休憩）

16時10分～16時30分

**第三部：**質疑応答と球磨川水害からの宣言文（嘉田由紀子）

　　　　木本千尋（「7・4球磨川流域豪雨被災者・賛同者の会」メンバー）

16時30分　閉会と感謝の辞　　篠原孝 衆議院議員　（シンポジウム実行委員長）

**＜流域治水シンポジウム実行委員会メンバー＞**

■委 員 長 篠原孝

■副委員長 阿部知子　近藤昭一　大河原雅子　上田清司　高橋千鶴子

■委　 員 　泉健太　黒岩宇洋　西村智奈美　道下大樹　小池晃　田村貴昭　舟山康江　　　　ながえ孝子　塩村あやか　田島麻衣子　武田良介

■事 務 局 嘉田由紀子

（敬称略・順不同）

協　力　：公共事業チェック議員の会

運営協力：農文協プロダクション

拓殖大学政経学部教授 関良基ゼミ